

ももさと 通信

2022年
2月1日
第4号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.ももさと.com>
E-mail momosato@galaxy.ocn.ne.jp



親子で凧あげに挑戦

ひまわり園園長 林 真世

たこたこあがれ 凧よくうけて
雲まであがれ 天まであがれ

「たこたこあがれ」童謡の歌詞、そのままの情景が見られたのは1月5日、後期保育初日の親子保育です。1月最初の親子保育は毎年恒例となった凧あげです。冬休み中、たっぷり一緒に過ごしたご家族と離れがたい子どもたちも、今年は親子保育からのスタートで、一層楽しめたように思います。学校はまだ冬休みとあって、ご兄弟も一緒に参加となり、いつもより賑やかな凧あげになりました。

ホールと三つの保育室に別れて、まずは凧づくりから。今の時代、凧と聞いて思い浮かべるのはビニールのカイトでしょうね。保護者の年代でも昔の和凧をご存知ない方が大半でしょう。親子保育で作る凧もカイトです。和凧は風情があつていいのですが、カイトは手軽に作れ、しかも高くあがりやすい利点があります。赤や緑、ピンク色のビニールにマジックで絵を描き、オリジナルの凧が完成。園舎向いのスポレクのグラウンドをお借りして、親子で凧あげに挑戦です。晴天に恵まれ、少しの風でもカイトなら大丈夫。お父さんやお母さんに手伝ってもらって、糸巻を掲げて駆ける子、保護者の方が夢中になって天高くまであがった凧を一緒になって見上げる子。凧が小さくて見えないくらいあがる親子もありました。三つの賞を用意してメダルがプレゼントされました。

親子保育では保育士だけでは躊躇してしまうようなことも挑戦できるのがいいですね。これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。

放デイ 夏休み活動記録

放課後等デイサービス青空 夏休み活動と 紀の国わかやま文化祭2021

ももさと通信第2号表紙を飾った放課後等デイサービス青空です。『紀の国わかやま文化祭2021』に向けた取り組みがその後どうなったか、お伝えしたいと思います。

ワクワクする青空

放課後等デイサービス青空（以下青空）は、支援学校に通う中高生の放課後活動をしているところです。放課後ですから、ホッと一息つけるような居場所を目指しています。

昨年度の学校休業宣言下から、活動コンセプトにカフェスタイルを取り入れていきます。様々な自粛制限がある中でも、子どもたちがワクワクする楽しい場をつくりたい、との思いがきっかけで始めました。よりセンスよく、よりオシャレにティータイムを楽しむこ



ティータイム

と。少し大人な雰囲気子どもたちに感じてもらうためです。昼食やおやつクッキングも、メニューに凝ってみたり、盛り付けに拘ってみたりと、流行りのカフェを真似て子どもたちと青空カフェタイムを楽しみました。

カフェというのは、ある雑誌の言葉を借りれば、『様々なカルチャーを統合する場所である』ということで、それならば青空がこれまで行ってきた様々な文化芸術活動（絵画・陶芸・音楽・手芸・木工・書道・よきこい・エイサー）もそこに融合させることができます。料理や飲料だけではなく、活動や空間すべてを繋げていけるのです。

そんなワクワクする毎日をおくる青空に、今年も子どもたちの夏休みが近づいてきました。

書道作品出品決定

カフェスタイルを継続するなか、今年度の活動目標として位置付けて

いたのは、『紀の国わかやま文化祭2021』への参加でした。文化活動として継続してきた書道で参加できないか、募集要項の発表を心待ちにしていたのです。そこに書道指導の名倉先生から一本の電話が入りました。「紀の国わかやま文化祭2021の県の委託講師になったんよ。作品作りを青空でも手伝ってもらえませんか」願ったりかなったりです。「やらせていただきます」と参加が決まりました。

先生との出会いは、青空がまだ貴志川障害児学童クラブ青空時代に遡ります。西井阪地区に移転する2年ほど前でした。地域のプロの指導者から文化芸術をご指導いただき、と船木常務理事からご紹介いただきました。それ



書く

から、数々の作品をご指導していただけてきましたが、今年、その集大成ともいえる全国的な規模の文化祭への出品になります。

法人の理事でもある、麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センターの藤本さんのご紹介で、県の担当課の職員さんにもお会いすることができました。これまでの書道作品づくりを伝えるなかで、今回の展示会場ビッグホールに負けないような、大型作品を作らせていただけることになりました。

題材『JUNGO』

書道作品を出品することになって、その重要なポイントとなるのは、題材を決めることでした。これが一番難しいところなんです。これまでの青空の展示作品は、メッセージ性を持たせ、大型紙でインパクトのある映えるものを目指してきました。今回は特に何と言っても全国の催しで、絶対に残念なものにはできません。

題材を決める日、ふと『谷川俊太郎』という言葉が浮かびました。早々タブレットの画像を繰っていると一片の詩が目に入りました。

世界はみんなのところで決まる
とてもドキッとしました。

世界はみんなのところで変わる
決まってしまっている世界も、みんなの力で変えることができる。子どもた

ちに、大人たちに大切に伝えたい。
私のこころはどんな色？
みんな個性があつていい。違つていていい。

きれいな色にこころをそめたい
きれいなこころの子どもたち。そのまま
までいて欲しい。

きれいな色ならきつと幸せ
みんなの心がきれいなら、きつと平和
な世の中になるにちがいない。

すきとおつていればもつと幸せ
もつと平和にしていきたい。争いが絶
えないこの世界でも、すきとおつたこ
ころの人が多くなれば、平和な世界に

変えていける。日々のなかで、みんな
が仲良く過ごしてほしい。そういう願
いをみんなに伝えたい。そう思い、こ
の詩にすることを名倉先生と決めまし
た。

こころの表現にも繋がる題材に出会
えたように思いました。

*谷川俊太郎『詩集すこやかに おだや
かに しなやかに』（佼成出版社）「こ
ころの色」から抜粋しました。

（今回、谷川俊太郎さんの詩を使わせて
いただくことは、著作権法に抵触する
のではないかと考え、出版社に問い合
わせてみました。今回の文化祭使用に
関しては、該当しないとの回答を得て、
題材に使用させていただきました。）

シャボン玉にこころの色を

書の下地の色や背景にどんな彩を出
すか。墨色の書を引き立たせるための
工夫が創造となります。ここに名倉先
生と長年やってきたなかでの、お互い
「変なもんはできひんわなあ」という
共通意識があります。

ある日、つぼみ園の園児が描いたと
いうシャボン玉を使った絵を見せてい
ただく機会がありました。「これを使
いたいなあ」先生に「シャボン玉で色
をつけてみたい」と伝えました。何色
ものの色のシャボン玉を紙に吹き付け
て、その上に書を書いてみよう、とい
うことになりました。



描く

ひとり一人のこころの色を、たくさ
んの色のシャボン玉で表現してみた
い。背景の意味づけができました。
ところが、5m×3mほどの大きな

紙に、シャボン玉を吹き付けて色をつ
けていくのは、気が遠くなるほどの作
業のように思えました。そこで、大き
なシャボン玉なら「いけるんど違
うか」と大きなシャボン玉づくりを子ど
もたちと始めました。しかし、大きな
シャボン玉は安定せず、割れて消えて
しまつたり、すぐに落ちてしまつたり
と、しょぼん玉でありました。

工夫を重ねて、プレートのシャボン
玉はうまく飛ばせるようになりました
が、絵の具を溶かしたシャボン玉はな
かなかうまくいかず、うまく紙にシャ
ボン玉をのせられたとしても、その輪
は薄い色にしかありませんでした。そ
れはとてもわかりづらいものでした。

何度も失敗するうちに気がつきまし
た。「何もうアルなシャボン玉に拘ら
なくてもいいんじゃないか」これだけ
大きなシャボン玉を作り続けたのだか
ら、子どもたちは見立てることができ
るようになってはいるはず。大きな方向
転換です。

紙に筆で大きなシャボン玉を描くこ
とにしました。丸いシャボン玉や飛び
始めのいびつなシャボン玉、いくつも
シャボン玉を作ってみて、いろいろな
形のシャボン玉を知ることができまし
た。

こころの色をシャボン玉の色に見立
てる。かたちにもいろんなこころの形
があつていい。そんな想いが、紙一面
に拡がりました。自分のこころを子ど
もたちは表現しました。

（夏休み中、試作も含めて、計4枚
の紙にシャボン玉を描くことになりま
した。書道パフォーマンス用の紙。こ
れまでも使っていた書道用の和紙。和
紙なら墨のにじみが表現できるが、書
道パフォーマンス用の紙ではかすまな
い。しかし破れにくい。試行錯誤を重
ねて最終、色のりの好い書道パフォー
マンス用の紙を本番用にすることにし
ました。）

夏休みの宿題

トントントンと話が進む中、県から
夏休みの宿題が出されました。それ
は、きいちゃんのおもてなしパネルの
制作で、様々な文化芸術活動のポーズ
をするきいちゃんに、デコレーシヨ
ンを施すパネル制作です。選ばせても
らった担当パネルでは、きいちゃんが
サックスを吹いています。吹奏楽で
す。背景のデザインがしづらそうとの
ことで、他の事業所が避けていた絵柄
だったようですが…。

いざ制作にかかると、子どもたちは
集中して取りかかってくれました。お
はながみを小さく丸めて、それを貼り
付けていく作業です。きいちゃんにつ



きいちゃんのパネル製作

いては、色指定されていて変更するとはできませんが、決まっているからかえって作業は簡単です。ほぼ一日できいちゃんは完成しました。背景については、事業所の自由に任ざられていて、オリジナリティーを発揮できると思います。しかし、図案をなかなか決めることができませんでした。

ところが書道作品の進捗に合わせて、イメージが湧いてきました。こちらもシャボン玉がいい。そうです、背景にシャボン玉を飛ばすことにしました。背景バックには青空を表して、そこにひとり一人のこころの色を飛ばします。きいちゃんは、桃郷カラーの照明のなかに立ち、サククスを吹いているのです。きいちゃんの演奏に合わせて

て、青空のみんなが楽しんでいるという場面を表しました。

コンセプトが決まると作業は急ピッチに進みました。おはながみをせっせと丸める子、ボンドを塗って貼り付ける子と分業が進みます。「青いおはながみが足りなくなってきました。明日までに買ってきてください」という子どもたちに言われる始末です。子どもたち主導の制作になりました。シャボン玉の色の配置も、バランスを見ながら相談して決めました。自分たちで作り上げたきいちゃんおもてなしパネルは、子どもたちのとっておきの自信作になったようです。完成後の記念写真では、パネル横の場所の取り合いになっていました。

気づきと活動

背景のシャボン玉のイメージもでき、本番前の試作品を作ることになった日、ある高校生に書の頭『私』という字を書いてもらうことにしました。今年に入ってから成長した姿に、挑んでみて欲しくなったのです。「私」って漢字書いてみてくれる？」「エーッ」という顔をしていましたが、まんざらでもない様子です。それ以上の言葉掛けはせず、筆を持たせてみました。名倉先生の前に進み、これでいい？という顔をしながら、筆を下ろし、『私』という漢字を書きあげてくれました。

実はこのことは、とても画期的なことでした。これまで、苦手なことは極力参加しない、と自分の中で決めていて、発表などはいつも最後の時間ギリギリの登場人物でした。小学生の頃は、人前で表現することができずに泣きだしてしまうのが常でした。最近でも参加することは稀なのです。それがトップバッターを努めたわけですから驚きです。

もちろん本番でもトップバッターを努めました。試作の時よりも、しっかりと両足を広げて立ち、筆運びにも力が入っていました。この字を自分の字と自信をもって書いてくれたと思います。

日々の活動のなかで、「あれっ」と思う瞬間があります。小さな変化への気づきです。子どもたちひとり一人に、その瞬間はあるはずで、それいかに気づけるかは、我々の腕にかかっています。その気づきを次の活動に取り入れていくことが、この仕事の面白いところだと思います。今日の活動は○○だけでも、メインはかの子を主人公にすること。そんなメニューでアプローチをかけていく。場面づくり次第で、彼らの成長にそと背中を押すことができるのです。

この書道活動もそんな場面を作り出してきています。もちろん名倉先生のご理解があつたのこと。素晴らしい指導者です。

ボランティアがやってきた

お盆前のことです。隣家に用事があつて寄らせていただきました。あいにくご主人は留守だったようなので、応対してくれた孫娘さんに用件を伝えました。すると、彼女は「自分は短大の学生で、支援学校教諭の資格を取るのに、見学に入らせていただきました。急な展開でした。こちらとしては、断る理由は見当たらず、とてもありがたい話だと、「いいですよ、いつでも来てください」と言つて応じました。

青空が西井阪地区にやってきたのは、彼女が中学生の頃だろうと思えます。それからずっと彼女は彼女の部屋から青空の様子を見て過ごしたに違いありません。クラブ活動がない日や試験期間中は、外で遊ぶ子どもたちの声を聞いていたでしょうし、子どもたちの大声に「うるさいなあ」なんて思つた日もあつたに違いありません。子どもたちが「○○先生」と呼ぶ職員の名前も、よく聞き知っていたのではないのでしょうか(笑) そんな彼女から「青空の活動に入つてみたい」と言つてもえられたことがとても嬉しく思いました。地域から認めってもらった、と思えた瞬間でした。



文化祭会場にて

そうこうして彼女がやって来ました。彼女は、母校の中学校や高等学校にやってくる卒業生かのように、全く違和感なくその場に馴染んでいま

た。子どもたちとも瞬間に打ち解け、活動を共にしました。職員にも物おじせず、しつかりとした口調で会話をしてくれました。我々が知らなかっただけで、彼女にとっては、ずっと一緒に過ごしてきた空間であり、仲間なのでした。地域の風景として青空にアイデンティティーを感じてくれていたのでしよう。彼女の生活圏に、青空はグッと入っていたのかもしれない。そう思えました。

彼女は月末までの数日間、夏休みの総まとめのような文化芸術活動の怒涛の日々を一緒に駆け抜けてくれました。エイサー・書道・夏まつり・きいちゃんおもてなしパネル制作、どれもが濃い日となったに違いありません。

我々にとってこの夏休みの収穫は、子どもたちがそれぞれの文化芸術活動で自己を表現することができたことです。しかしそれ以上の収穫に、地域との交流が、社交儀礼的な表面上のものではなく、よりこころの深い部分で育てられていた、ということを感じられたことでありました。彼女の存在がそれでした。ここに至るには、彼女のご家庭や地域ぐるみで青空を肯定してくれていなければ成立していなかったはずで、彼女を育てられたご家族、地域には大変感謝いたします。

彼女の今後の学業に青空での日々が少しでもお役に立てることを願っています。

最後に

今年度は、春から秋にかけて書道を中心とした文化芸術活動を繋げる活動ができました。特に夏休みには、じっくりと時間をかけて、作品づくりに集中して取り組むことができました。

11月13日には、作品展示会場のビッグホールに子どもたちと作品を観に行きました。自分たちの作品が会場に展示されることによって、作品の価値がさらに増すことを実感したようです。また、参加している他事業所や支援学校制作の作品を見て、創意、工夫されているところなどを知る、学びの場にもなりました。

行政の企画に参加し、地域の指導者やボランティアの協力を得て活動を作り上げたこの夏の『紀の国わかやま文化祭2021』への取り組みは、青空独自企画の活動だけでは得られなかったであろう、充実した達成感を得られたものになりました。非常に楽しいものになりました。今後も広い視野で取り組んでいきたいと思っています。

今回ご紹介したエピソードは、ほんの一部です。青空の取り組みに関する活動は、まだまだいろいろな活動があります。またの機会にご紹介したいと思います。

(放課後等デイサービス青空管理者

金城真左志)



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

発達講座④

「発達を見つめて」

つくしんぼ相談支援室
発達相談員 山本 翔太

Rくんはいつも笑顔で、大人が伝えたこと、お願いしたことなどに対して、「わかったー」と積極的に応じてくれる、とても律儀なお子さんでした。でも、本当にしたいこと、実は嫌なことなど、自分の想いを表現することはちよっぴり苦手。そのため、ストレスがたまると、大人の目の届かない所でちよっぴりとイタズラしてみたり、お家ではかなり頑固な一面を発揮するなど、園とは正反対な姿もあり、お母さんはRくんとの間わり方に悩まれることもありました。そんなRくんが、ある時から、用事は無いけれど、たまに一人で相談室へやって来るようになりました。ある日、私は気まぐれでギターを手に、尾崎豊の「卒業」を弾き語り、「行儀よくまじめなんてでぎやしなかつたよ」と歌い、Rくんに「園で頑張りがんでいいんだよ、自分の気持ちを出していいよ」と話したことがあります。まだ4歳児さんだった彼に、その言葉がどこまで伝わったのかはわかりません。

その後、Rくんは5歳児で地元
の保育園に転園し、小学校へと就学していききました。小学校に上がってからは、Rくんと出会う機会はほぼありませんでした。ところが昨年、小学5年生になったRくんのお母さんから、久しぶりに

電話をもらいました。お話を聞くと、学校でトラブルがあり、自分の想いを先生にくみ取ってもらえなかったことや、最近学校へ行くことがしんどい時もあるとのことでした。そのような時に、お母さんの車に乗って音楽を聴いていたRくんが、「なんか久しぶりに山本先生の尾崎豊が聴きたくなつたな」とつぶやいたそう。お母さんが「お話しに行つてみる？」と尋ねると、Rくんは「行きたい」と言い、それで連絡をくださったそうです。

数年ぶりに出会ったRくんは、立派な少年になっていました。今回は残念ながらギターは用意しておらず、私はただRくんの話に耳を傾けました。以前と違い、自分の心の中にある想いをことばで上手く伝えてくれるようになったRくん。自分の想いを話せたことで、少し気持ちがすっきりしたようでした。

日々子どもたちと接していると、できるようになったことや、変化することを目を向けてしまうことが多々あります。しかし、できなさを感じたり、困った事があつた時には、一度立ち止まってみたい、時にはヘルプを出し、他の人に相談することが出来る。そのようなことも、長い人生、社会の中で生きていくためには大切な力だとも思います。また、困った時に戻ってこられる場所、安心して自分のことが話せる場所、それも療育施設の大切な役割なのだろうと感じました。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つぼみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター（つぼみ園に併設）			
	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

～表彰～

このたび、法人役員並びに職員が次の表彰を受賞しました。ひとえに保護者の方々、関係者の皆様方のおかげです。心からお礼申し上げます。

○和歌山県白梅賞

船木栄子（常務理事）



○和歌山県社会福祉協議会会長表彰・永年勤続功労者

沖殿佳子（児童発達支援センターつぼみ園園長）



今回の表紙は、凧揚げです。子どもたちが頑張って作った凧は、大空を自由に泳いでいます。今にも楽しそうな声が聞こえてきそうですね。凧揚げは一説によると、昔から「立春に空を見上げると、それは健康に良い」という言い伝えがあり、新年の頃に健康を祈願する遊びとして親しまれるようになったそうです。また、「紀の国わかやま文化祭2021」での活動の様子も紹介しています。青空の作品、きいちゃんのパネルは、とてもカラフルで、元気

をもらえる作品でした。きいちゃんも作品の中で心地良くサックスを演奏しています。つぼみ園の作品は、大きな白い紙に書道の筆で描いた迫力満点で伸び伸びとした作品でした。「どんな風に子どもたちは作品に取り組んでいたのかな。なんだか楽しそう。きつとその姿も可愛かっただろうな」と想像しながら眺めていると、とても温かい気持ちになりました。子どもたちの頑張りや魅力を多くの人に知ってもらいたいし、子どもたちにも様々な制作を通して楽しさを感じたり、少しでも自信をつけてもらえたらと思います。（西浦）

編集後記

管理者からの施設紹介④

児童発達支援事業『あすなろ教室』

管理者 澁川 亜弓

☆ 施設の概要

- 沿革：2017年（平成29年）4月開設
- 住所：かつらぎ町中飯降1062番地の1
- 定員：10名
- 利用者：1歳児～2歳児
- 保育時間：9:15～15:00
(木曜日：9:15～11:30)
- 地域：伊都地域

☆ 大切にしている保育目標

- ①自然の中で生き生きとした保育を保障します。
- ②体づくり・体力作りを目指します。自分から『やりたい』の気持ちを持てる力をつけるため、メリハリある一日にします。
- ③保護者との育ちあいを大切に、家族と共に行事を楽しみます。
- ④地域ぐるみで子育てに参加を求めあってきます。

☆保育内容

登園後広い園庭でしっかりと身体を動かして遊び、元気いっぱい一日のスタートとなります。友だちと一緒に追いかけてこや砂遊び、園庭にある木の実を拾ったりして友だちとの関係、自然に触れ合う事を大切に遊びを展開しています。あつまりが終わると、天気の良い日はお散歩に出発！大好きな電車が近くから見れる良い環境♪手を振ったり、駅で間近に見る電車に大喜びです。お散歩コースはたくさんあり、カニ探しやドングリ拾い、ススキの穂を採ったりと自然に囲まれた場所ならではの楽しみがたくさんあります。

天気の悪い日も、広いホールがあるから大丈夫！ホールでリズムやサーキットを楽しんでいます♪毎週木曜日は親子保育。親子で散歩やクッキング・リズムを楽しみ、お家の人と楽しい時間を共有します。遠足や運動会・クリスマス会も行い、普段とはちょっと違う親子ならではの保育もしています♪

